

イマを支え、 ミライにつなげる

北海道総合通信局電波監理部監視課

三宮 裕人

SANNOMIYA Yuto

平成21年 10月 総務省採用

北海道総合通信局無線通信部陸上課

平成24年 4月 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課

平成25年 7月 総合通信基盤局総務課

平成27年 8月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課

平成28年 4月 北海道総合通信局電波監理部電波利用環境課

平成29年 7月 現職



Question & Answer

Q. 総務省を志望した理由は？

A. 情報通信分野の持つ無限の可能性が、今後どう世の中に浸透し社会的役割を増大させるのか。その展望の最前線で、日進月歩の進化を感じながら働けることに魅力を感じ、志望しました。採用当時から比べ、進化した情報通信は一層日常生活にとけこみ、様々な社会問題の解決に向けても活用されていることから、想いは変わることなく働いています。上述の可能性が、更なるミライにどのようなカタチで生活を彩るのか。興味のある方はぜひ、共に進んでいきませんか。

Q. 今後、どのような仕事に挑戦したい？

A. 2019年ラグビーW杯・2020年東京五輪開催時の特別監視体制のメンバーの一員として、現場での知識・知見を広げていければと思います。(総務省では、サミット等の国際会議・スポーツの世界大会など規模の大きなイベントの開催時に、会場周辺の通信環境を守るため、電波の特別監視体制を構築しています)現場経験からの裏付けも自身の引き出しに備え、情報通信分野の行政官として、さらに深みを増していきたいです。

■「あたり前に使える」を守る

電波は、携帯電話やWi-Fi、テレビといった身近なものから、消防・救急・警察無線、航空無線や鉄道無線などの公共的なものまで様々な分野で利用されており、私たちの暮らしに欠かせないものとなっています。一方で、電波は相互に干渉しやすいことから、混信・妨害などの電波障害を防ぐためのルールがあり、それらを総務省において監視・監督することで、安心・安全な電波利用環境を維持しています。

私は、その実務を担う電波監理部監視課で、無線局の運用状況の監視を行い、電波障害の排除やルール遵守のための注意などを行っています。電波障害の発信源が車両に搭載された無線機の場合は、走行経路を電波監視システム(DEURAS)から導き出し現地に出動、方向探知装置を用いて追跡・特定し、排除していくことになります。緊張感を持って道内各地を回る日々ですが、電波利用環境を守る強い使命感と責任感を抱き、業務に取り組んでいます。

■自分の可能性を試せる職場

入省以来、消防無線デジタル化における周波数割当計画作成、電波法等一部改正における国会対応、消費税価格転嫁等相談対応、準天頂衛星システム導入に向けた業務、航空機Wi-Fi搭載における周波数要求、電波利用環境保護の広報・監視など、様々な業務を経験してきました。いずれの課においても、上司・同僚は魅力的な方が多く、共に過ごしてきた時間(公私問わず)は、貴重な財産になっています。また、枠に縛られない発想に寛容な風土があります。一例ですが、上述の電波利用環境保護の広報を担当していた際、Web広告・ラジオCMを用いることが多いなか、自ら企画・行動することで、イメージキャラクター(某音楽バンド)のライブ会場で広報活動を展開することもできました。さらに、様々な活躍の場も用意されており、国内外への留学、本省・地方局だけでなく、在外公館や国際機関等への出向、南極観測隊への派遣もあることから、自分の可能性を最大限に試せる職場だと思います。



Private Life

北海道の魅力を再発見すべく、グルメ関係、音楽フェス関係、さまざまなイベント会場に足を運び、地元の良さに触れています。また、学生時代から野球を続けており、現在も札幌市内の草野球チームで日々楽しんでいます。本省勤務時代は、職場の野球部に所属していました。本省野球部、おすすめです！